

*Associazione  
italo-giapponese  
dell'Hokkaido*

## 北海道日伊協会 会報

VOL. 72号 2025年4月

### ■訃報

北海道日伊協会の初代会長(1974～8年)外川継男さんが、今年の1月3日に東京のご自宅で亡くなりました。氏の協会への多大のご貢献を感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### ■事務局より

#### 【実用イタリア語検定】

第60回春季実用イタリア語検定が3月9日に「かでの2・7」で行われ、26名が受験しました。(内訳:準2級1名、3級8名、4級3名、5級14名)

イタリア語検定協会は、2020年春季検定直前に発出された政府によるイベント等の中止要請の影響で大きな損失を被り、その後年2回の検定のうち1回をオンラインで行うなどの経営努力を重ねましたが、昨年秋には検定を中止せざるを得ない事態にまで追い込まれていました。しかし今春からは新体制で従来通り年2回対面実施していく旨発表がありました。次回秋季検定は10月12日に予定されています。

#### 【SaloneCINEMA】

2025年度1回目となるSaloneCINEMAが4月26日14時より「みべ音楽院5階ホール」で行われます。上映作品は『幸せなラザロ』(原題: Lazzaro Felice)です。申込み等は追って事務局よりご案内します。

#### 【大阪万博ツアー】

当会は、本年6月17日～19日「大阪万博ツアー」を開催します。万博では「イタリアパビリオ

ン」、神戸北野異人館散策では「イタリア館(プラトン装飾美術館)」、大塚国際美術館等、イタリアに触れるスポットを巡ります。また、いま大注目の淡路島も盛り込み、2泊3日ながらたっぷりお楽しみ頂ける欲張りな内容となっています。皆さん奮ってご参加下さい。

### ■編集後記

71号を北海道日伊協会創立50周年の記念号とした関係で発行が年末にずれ込み、そのあおりで72号の発行も大幅に遅れることになりました。夙に原稿を投稿して頂いていた方や、発行をお待ち頂いていた方にはお詫び申し上げます。

72号はコロナ禍のあとのイタリアに関する特集を組んでみました。特別会員エレナ・フラッカリさんの現地レポートと、理事の大和さんの旅行記、それにイタリアで行われた二つのイベントの報告が、正常化を強く印象づける内容になっています。

表紙はユネスコ世界文化遺産に登録されているヴァル・ドルチャ(シエナの南)で、エレナさんの撮影です。写真はもう1枚あり、これは次号の表紙で使わせ頂こうと考えていますのでご期待ください。

(晶)



北海道日伊協会

〒060-0042 札幌市中央区大通西14丁目3番地

みふじビル

090-1306-1974

conhkd@aig-hokkaido.com



## 目次



### 特集：コロナ禍も明けて

- ・ 『活気を取り戻したイタリア』.....エレナ・フラッカーリ(特別会員)...P02
- ・ 『コロナ後の北イタリア』.....大和 達也(理事)...P04
- ・ 『プッチーニ没後100周年記念オペラ～安田侃の彫刻とともにある特別な蝶々夫人』.....安田 琢(理事)...P08
- ・ 『大阪万博を契機としたイタリアでのプロモーション事業のご報告』.....乾 藍那(会員、伊語講師)...P10
- ・ 『北海道日伊協会と世界の大学生～アイヌ文化を通じた交流事業』.....(同上)...P12

### 活動報告：北海道日伊協会創立五十周年記念事業より

- ・ Salone d'Italia、オンラインSalone.....毛利 晶(副会長)...P14
- ・ 2025年北海道日伊協会新年会.....菅原 明子(理事)...P14～15
- ・ 『異国の地で夢を追いかける～若きイタリア人たちの日本移住物語』.....エリーザ・ベッリカノ(会員、伊語講師)...P15
- ・ マリアンナ・チェスバ『日本人があまり知らないイタリアのお祭り』.....菅原 明子(理事)...P16

### 会員便り

- ・ 『関西学生イタリア語朗読大会』.....マリアンナ・チェスバ(理事、伊語講師)...P18
- ・ 『スペインからの新参者です』.....泉 尚子(会員)...P19

### 連載

- ・ 『G・D・ アンジェリスの再考と殉教④』(最終回).....米倉 紘(副会長)...P20

訃報 、 事務局より 、 編集後記.....裏表紙



## 北海道日伊協会と世界の大学生 「アイヌ文化を通じた交流事業」

前ページでご紹介したイタリア視察に加え、諸外国大学との交流の環といたしまして、北大留学生20名と協会員3名(計23名)のご参加のもと、白老への見学会を実施させて頂きました。このイベントは、白老の地域芸術祭(ルーツアンドアーツしらおい)を主催する白老文化観光推進実行委員会と、北海道日伊協会の共催により実施されました。

参加者の出身国は、イタリア・ベトナム・エルサルバドル・ポリビア・チエコ・イラン・トルコ・オーストラリア・チリ・タイ・韓国・中国と多彩で、14カ国にのびりました。来札して一か月以下という留学ホヤホヤの学生も多数おり、地下鉄の乗り方が分からなくて集合場所まで四苦八苦して来たという話も。

車内で早速自己紹介。皆さん、礼儀正しく、日本語がとても上手！アイヌ文化に大いに興味があつて、今回のイベントをとっても楽しみにしているとの事でした。直ぐに打ち解けて、バスを降りる頃には皆さん仲良しに。

ウポポイをそれぞれ見学した後は、私が企画した展示会『白老の手仕事展』へバスで向かいました。皆さん、地元・白老の作家の作品を、近くでじっくり鑑賞してくれました。

それに続いて、白老のアイヌ文様刺しゅうサークル「フッチコラチ」さんによる、アイヌ刺しゅう体験へ。ここでは、特に男子学生達の器用さが目につきました。皆さんそれぞれ、デザイン・糸選びにも個性が光りました。出上がったアイヌ刺しゅうの作品は、前ページでご紹介したヴェネチア・カフォスカリ大学で10月25日に行った同様のアイヌ刺しゅうワークショップの作品とはぎ合わせ、大きなパッチワークに仕上げる事になっています。カフォスカリ大学・北大留学生十日伊協会の合作が仕上がるのが楽しみです。

(下の写真は他のワークショップが完成させた作品。このような作品になる。)



## Upopoy @ National Ainu Museum



ウポポイの自由見学 (国立アイヌ民族博物館)

## Roots @ Arts Shiraoi ~ Handiwork from Shiraoi



地域芸術祭(ルーツアンドアーツしらおい)の展示『白老の手仕事展』を見学 (しらおい創造空間「蔵」)

## Ainu Embroidery Lesson



アイヌ刺しゅうサークル「フッチコラチ」によるアイヌ刺しゅう体験 (白老町川浴生活館)





オンライン・サローネ

『日本人があまり知らないイタリアのお祭り』

- 講師 マリアンナ・チェスバさん(理事、立命館大学講師)
  - 日時 2024/8/20(火)
  - 参加者 会員8名、一般1名
- オンラインにてアブルツォ州オルトーナから配信。  
※詳細は次ページ

サローネ・ディタリア

『マルコ・ポーロとクリストファー・コロンブス』



- 講師 倉田稔氏(理事、小樽商科大学名誉教授)
- 日時・会場 2024/9/1(日)、札幌市民交流プラザ 控室四〇二
- 参加者 会員13名、一般8名

十三世紀の終わりに西回りで「中国まで旅した」と言われるヴェネツィアの人マルコ・ポーロ、それから百年ほどあと、東回りで大西洋を航海しアメリカ大陸を「発見した」とされるジェノヴァ人クリストフォロ・コロンボ(コロンブス)。教科書でも馴染みのこれら二人の冒険家について、彼らの旅を時代背景の説明やエピソードを交えて辿り、私たちに馴染みの世界観がヨーロッパ中心の一面的なものであることの指摘で終わる非常に興味深いお話でした。



- サローネ・ディタリア
- 『ローマ建築の成立と展開からみる特質』
- 講師 羽深久夫氏(札幌市立大学名誉教授)
  - 日時・会場 2024/10/27(日)、札幌市民交流プラザ控室四〇二
  - 参加者 会員12名、一般4名

古代オリエントの神殿から西洋中世の教会建築に至る歴史を膨大な資料をもとに辿り、最後に中世以降のヨーロッパ教会建築で主流となるバシリカ式と、東方ビザンツ世界でも広く行われた集中式の二つの建築様式がアルメニアの教会建築では併存して見られることの建築史上の意味を明らかにするという、非常に自身の濃いサローネでした。お話のなかではいくつもの興味深い情報が提供されましたが、特にローマン・コンクリートが並外れた強度を誇るのにはセメントと火山灰を主成分とするためだが、この火山灰を入手できるのはボツツォーリなどイタリアの地域に限られていたの、ローマ帝国滅亡後の中世ヨーロッパの大型建築では石造が主流となったという説明は興味深いものでした。つまり建築の様式は受容されても、素材は生産地が限られるため使えるものと使えないものがある、様式はそうした条件のもと継承されて行くということなのでしょう。

サローネ・ディタリア

『異国の地で夢を追いかける』若きイタリア人たちの日本移住物語』

- 講師 エリーザ・ペリカノさん(会員・伊語講師)
  - 日時・会場 2025/2/5(火)、札幌市民交流プラザ、控室四〇三
  - 参加者 会員・伊語講座受講生26名、一般2名
- ※詳細は左ページ

## 異国の地で夢を追いかける〜若きイタリア人たちの日本移住物語

エリーザ・ペリカノ(会員・伊語講師)

二〇二五年二月四日に、Salone d'Italiaの場を借りて、「異国の地で夢を追いかける〜若きイタリア人たちの日本移住物語」という題名の発表をさせていただきました。

今回の発表は、九月に行われた研究発表をもとにしています。普段日本のメディアを研究している私からしますと、まったく新しいテーマに挑戦する形での研究でした。その背景には、普段の研究活動で「イタリア」というテーマを組み込みたいという気持ちがありました。

発表では、「どうしてイタリア人が日本に移住するのか」という質問に、自分なりの答えを出してみました。しかし、単純に見えるこのリサーチ・クエスションに答えるのはかなり難しい。初めの一步として焦点を大学卒の移住者に絞り、二十人ほどの人にインタビューをしました。そのインタビューから浮かび上がったのは、異文化の中で遅く生きていく若者の姿でした。

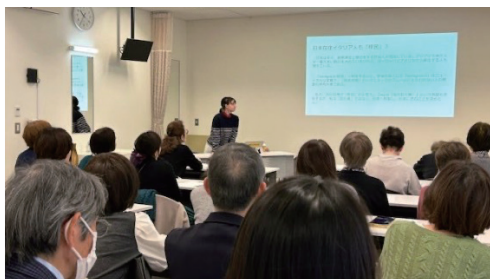
Saloneの後は、講演に来てくださった方から質問をいただきました。「私たちは、彼らを支援するために何ができるのか」という内容でした。

インタビューに応じてくださった方はほぼ全員は、日本語能力が高く、日本社会に慣れてしまった人です。安定的な仕事についており、自立して生活できています。そういう意味では、経済的、もしくは教育的な援助は必要ではないと思います。ただし外国で暮らすのは大変で、多少の摩擦を伴います。その摩擦でメンタルが擦り減っていくのも、十分あり得ると思います。

彼ら彼女らを支援するために一番にできることは、「多様」な社会になってきている日本社会を肯定的に捉えていくことではないかと思います。これは具体的に、自分が



最後に、インタビューに応じてくださった方々、会場を活気あるものにしてくださった会員の皆様、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。皆様のご協力とご参加のおかげで、非常に充実したイベントとなりました。



## 北海道日伊協会

2025年新年会

菅原明子(理事)

北海道日伊協会新年会が、一月二十六日(日)の十三時からみべ音楽院で行われました。

コロナやインフルエンザ大流行の時期ながら、一般一名を含む十七名と、昨年とほぼ同じ数の参加者にお集まり頂きました。冒頭に三部会長から、「昨年は当会創立五十周年記念の年でした。友好を掲げて五十年間様々なイベントが行われてきました。これから皆様一人一人のお力を借りながら新しい道を切り拓く思いで、出発したいと思います。」とご挨拶がありました。

懇親会ではそれぞれ近況を報告し合いましたが、一月に入会したばかりの会員から、「スペインでの五年滞在を経て帰国後、札幌で日西交流団体を探していたところ、ある会で三部会長に「スペインは昔イタリアだったわよ」と声を掛けて頂き入会を決めました。」と入会の動機が語られると会場は笑いに包まれました。

続く余興の時間では、事務局の菅原が準備した三十枚余りのスライドを使ったチーム対抗のクイズ大会が行われました。

←

「ローマと同じ緯度にある日本の都市は？」「イタリアの建国記念日はいつ？」「一番最近登録されたイタリアの世界遺産はどこ？」「イタリアで初めてテレビ放映された日本のアニメはどれ？」等、様々なジャンルから出題された問題に各チーム協力し合って取り組みました。優勝チームには賞品が用意されているとあって、正解が発表される度に歓声と落胆の声が入り混じり、大いに盛り上がりました。

いつもとはひと味違う交流の時間となりました。







### *Regata storica* (レガータ・ストリカ、ヴェネト州ヴェネツィア)

毎年九月の第一日曜日に大運河で開催される。十六世紀頃の形のボート数十隻がパレードする「歴史的パレード」と、ヴェネツィアの六つの地区別に色分けされたボートでの「ボートレース」が楽しめる。



### *Giostra del Saracino* (ジョストラ・デル・サラランチーノ、トスカーナ州アレツツォ)

毎年六月と九月に行われる伝統的なお祭り。中世初期に行われたキリスト教の騎士とサラセン人との戦いを再現する。



### *Scacchi viventi* (人間チェス、ヴェネト州マロースティカ)

二年に一度開催される人間チェス。十五世紀に一人の女性の恋人の座をかけて勝負したチェスの試合を記念したお祭り。



### *Battaglia delle arance* (オレンジを投げ合うお祭り、ピエモンテ州イブレア)

毎年カーニバルの時期(主に二月)に開催される。一二〇〇年頃の貴族と市民の戦いを今に伝えるために一八〇八年に始まった。市民たちが九チームに分かれ、馬車に乗った貴族たちをオレンジで攻撃する。以前は豆を使っていたが、現在はオレンジを使用している。イブレアではオレンジは栽培されないで、シチリアから大量のオレンジが持ち込まれる。



### *Calendimaggio di Assisi* (カレンディマッジョ・ディ・アッシジ、ウンブリア州)

五月初めに行われる市民祭で、アッシジのお祭りの中でも一番大規模なもの。住民たちはアッシジの町が二分されていた中世の頃の衣装を身にまとい、二つのチームに分かれて当時を再現する歌や踊り、劇などでお祭りを盛り上げる。(https://www.youtube.com/watch?v=sASGqW50Mf)



### *La notte della Taranta* (ラ・ノッテ・デッラ・タランタ、プーリア州サレント地方)

毎年八月に開催され三十万人以上の観衆を動員するヨーロッパ最大級の民族音楽フェスティバル。近年では、伝統音楽の枠にとらわれずジャズ・ロック・オーケストラと融合させるといった新たな試みも大きな魅力の一つとなっている。(https://www.youtube.com/watch?v=ZtCQXJwN96o)



### *Infiorata di Genzano* (インフィオラータ「花のお祭り」、ラツィオ州ジェンツァーノ)

ローマ南東約三十キロにある古都ジェンツァーノで毎年六月に行われる花の祭典。聖体の行列を迎えるキリスト聖体祭の行事の一つ。ゆるやかな傾斜のある通りに様々な種類の花四十五万本分の花びらを使い、村人総出で夜を徹して花の道を作り上げる。その年の一番の作品を決めたあと、司祭が花の上を歩いて渡り、お祭りのフィナーレを迎える。(https://www.youtube.com/watch?v=Gz\_d7yxYsxs)

この他、ウンブリア州スペッロで行われるインフィオラータも有名。

## 『マリアンナ・チェスパ』 『日本人があまり知らないイタリアのお祭り』

菅原明子(理事)

サローネでは日本人があまり知らない九つのイタリアのお祭りについて、北海道日伊協会の理事のマリアンナ・チェスパさんに説明して頂きました。それぞれのお祭りは宗教に由来するもの、地域の歴史が背景にあるもの、と起源は様々ですが、そこに住む人々に守られ、心を結び付ける大切なものである事が伝わってきました。